

米販売好調でフル生産

富士重社長 15年は供給不足も



吉永社長

力を96万台と、13年度比18万台増やす。このうち群馬製作所は3万台増の63万台を見込んでいる。

富士重工業の吉永泰之社長は群馬県太田市で日本経済新聞の取材に応じ、「米国販売が予想以上に好調で、国内もフル生産が続いている」と語った。5月に発表した中期経営計画の「変更は考えていない」としたものの、「2015年は生産が追いつかない」と予測。群馬製作所（太田市）の増産を含みを持たせた。

国内販売については、「消費増税後、予想していた以上に厳しい」と述べた。8月の同社の新車登録台数は前年同月比15%増だが、「（6月に発売した新型スポーツワゴン）レヴォーグの受注残が2万5000台あるからで、実際の受注は苦戦している」と語った。今月末に主力車「レガシイ」の新型車を投入する。一方、米国は好調だ。同社は14年に米国で49万台の販売を見込み、日米合計で年間5万台分の生産能力を増やした。

産能力を増強した。しかし、実際の販売台数は50万台を超える」との見通しを明らかにした。国内販売が苦戦しても、それ以上に米国が好調なため、「供給が追いつかない状況」と語った。

次の大きな生産能力の増強は米国での16年の11万台増。「これは（主力車種）インプレッサの米国生産開始で、商品開発

との関係で前倒しできない」と指摘し、15年の生産能力不足を懸念した。同社は今秋、群馬製作所の年間生産能力を62万7000台に増やした。

これまでの少ない投資で少しずつ能力を高める「チョコット能力増強」を繰り返してきたが、吉永社長は「それも限界がある」と認めた。

足元の円相場下落については「当社の考え方は変わらない」と強調し、海外での生産計画、部品調達の方針を変えない考えを示した。